

1

特集

埼玉大学×ウクライナの 取組を紹介します

 Vol. 33
 November
 2022

キーウの学校へ「紙芝居 桃太郎」をオンライン授業

9月21日(水)、本学教養学部長 野中進教授と同学部4年 棚原梓さんが、ウクライナ キーウの学校「ギムナジウム136M」の5年生に向けて「紙芝居 桃太郎」のオンライン授業を行いました。この授業は、本学の協定校であるポルタワ教育大学のオリガ・ニコレンコ教授の依頼により実現したもので、桃太郎はニコレンコ教授が編集したウクライナの教科書(「外国文学」、小学校5年生用)の教材に採用されています。



▲紙芝居を制作する子どもたち

棚原さんは桃太郎の紙芝居を読み上げる役目を担当。日本語で物語を読み上げますが、ウクライナ語の字幕を付し、子どもたちが物語を正しく理解できるよう工夫しました。続いて野中教授が、「日本から見る桃太郎」と題した講義をウクライナ語で行い、紙芝居の歴史や桃太郎の物語、童謡「桃太郎」等について講義を行いました。

その後、子どもたちは講義を通して学んだ「桃太郎」を自分たちの形で発表。紙芝居を制作し、それぞれの桃太郎を演じました。現地で授業を担当したナタリア チェルニャーエフ先生からは、子どもたちが桃太郎や日本文化の講義を大変喜んだとの感想が寄せられています。



▲野中教授による桃太郎オンライン講義の様子



▲紙芝居を読み上げる棚原梓さん



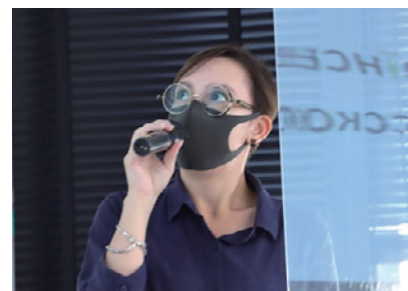
▲桃太郎を通して日本文化を学びました

ウクライナ文化を届けたい! 留学生が授業で講演

9月29日(木)、基盤科目「Introduction to Japanese Culture」の第1回目講義にて、昨年度本授業をオンラインにて受講していたウクライナからの留学生 ボンダル・アンナさんによる、「後世に残したいウクライナの文化」と題した講演が行われました。海や山など豊かな自然があるウクライナが好きと教えてくれたアンナさんは、ウクライナの地理や主要な都市について動画を用いながら、流暢な日本語で説明。続いて、女性の民族衣装「ヴィシヴァンカ」や「ボルシチ」といったウクライナの伝統的な衣装や食、祭りについても紹介しました。アンナさんは、「他の国の文化を知ること、自分の国のことをもっと知りたいと思うきっかけになってくれたら」と、本講演への想いを話してくれました。



▲教室の様子



▲講演するアンナさん

2
国際

目標額達成！アフガニスタンの学生をクラウドファンディングで支援

本学大学院理工学研究科博士前期課程を修了後に帰国したものの、母国で不当な扱いを受けているアフガニスタンからの元留学生のうち2名について、博士後期課程入学および家族帯同での来日を支援するためのクラウドファンディングを行いました。一家族あたり50万円を目標額に設定し、8月26日から開始したところ、わずか12日で目標額を達成することができました。学生と家族は、現在日本渡航への準備を進めております。趣旨にご賛同いただき、ご寄附をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

埼玉大学マスコットキャラクター メリンちゃん ▶



ありがとうございます

3
学生

学生サークル「Formula Project SU-spirited (FPSU)」が全国大会で過去最高順位を獲得

埼玉大学学生フォーミュラプロジェクト「Formula Project SU-spirited (FPSU)」は、学生が自ら「フォーミュラカー」を構想・設計・製作し大会で競技を行う、モノづくりの総合力を競う活動を行っています。

9月6日(火)～10日(土)の5日間、国内の大学フォーミュラプロジェクトが集う「学生フォーミュラ日本大会2022」が、静岡県小笠山総合運動公園「エコパ」にて開催され、FPSUは全63大学中11位の記録を達成しました。これは、これまでの同大会におけるFPSUの過去最高順位です。また、全ての静的・動的審査に参加し、完遂・完走したチームに送られる「日本自動車工業会会長賞」を4年連続で受賞しました。



▲走行中の一コマ



▲Formula Project SU-spirited (FPSU) の皆さん

4
地域

高校生向け「埼玉大学で学ぶ環境学習」を実施しました

9月25日(日)に、埼玉県立総合教育センターが主催する『「農業・環境・自然」高校生体験活動』の一環として、県内の高校生を対象とした講義および実験体験を開催し、17名が参加しました。

この活動は、実体験を通して農業・環境・自然環境への理解を深め、埼玉大学および環境科学国際センターが取り組む環境に関する科学技術を体験し、環境問題への興味・関心を高め進路選択の一助とすることを目的としたものです。

全4回のプログラムのうち、第2回の講師を大学院理工学研究科 石川寿樹准教授が務め、「ラン藻が生産するカビ臭物質」をテーマとして実施しました。班ごとに協力しながら楽しんで実験を行い、参加した高校生からは、「病気の診断にも使われるPCRが思ったより簡単にできて驚いた」「官能試験の予想通りに、DNAを目で見て確認することができてうれしかった」といった感想が寄せられました。



▲体験活動の様子

5
地域

さいたま市とのイノベーション創出連携に関する覚書を締結しました

8月10日(水)、本学はさいたま市と「イノベーション創出連携に関する覚書」を締結しました。

これまで本学は、「さいたま市と国立大学法人埼玉大学との連携に関する包括協定書(平成20年3月10日)」に基づき様々な取組を進めてきましたが、両者における産学官連携に向けた機運の高まりを受け、包括協定における「地域経済の活性化」項目に関する連携の一層の深化を目的として今回の覚書の締結に至りました。

本学の使命として、教育、研究の2つの柱に加え、近年は本学が有する「知の集積」を活用した社会貢献が大きな柱となっており、様々な「知」を社会課題の解決に活用することが求められています。さいたま市の特色ある地域資源との協働により、本学は地域の発展に貢献して参ります。



▲覚書を披露する坂井貴文学長(左)と清水勇人さいたま市長(右)

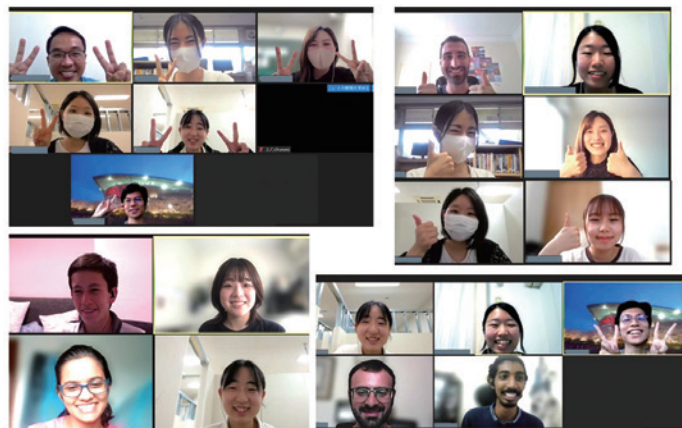
埼玉大学オンラインサマープログラムに 12か国38人の留学生が参加しました

例年6月、埼玉大学では4週間の短期語学・文化研修「サマープログラム」を実施しています。

2015年から始まったこのプログラムは、2019年までの5年間、毎年協定校から留学生を迎えていましたが、2020年度以降はコロナ禍のため対面での実施が叶いませんでした。

今年度は昨年に引き続き、プログラムをオンラインで開催。12か国38人の留学生が参加しました。サマープログラム期間中、参加学生は日本語や文化、経済、国際開発などの講義を受講するとともに、本学学生とオンラインで交流しました。

参加学生からは、「プログラムの授業に参加して、非常に有益で重要な知識・スキル・考え方を学ぶことができた」「埼玉大学生と交流する機会があり、お互いの国の生活について話すことができて楽しかった」といった感想が寄せられました。



Summer Program 2022 - Japanese Language Support Room

▲オンライン交流会の様子

日本の伝統的な体の使い方や踊りの文法を学ぶ —日本舞踊体験ワークショップを開催しました—

7月9日(土)、花柳流師範の花柳由美千乃先生を講師にお迎えした「日本舞踊体験ワークショップ」を開催しました。このイベントは、自身も日本舞踊を長く続けている大学院人文社会科学部研究科 ビュルク トーヴェ教授(花柳千乃真帆)が主催したもので、当日は埼玉大学で学ぶ留学生を含む32名が参加し、日本舞踊を体験しました。

浴衣に着替えた学生達は、女踊りと男踊りのお稽古に挑戦。女踊りの端歌「京の四季」では、春夏秋冬のうち、春のパートを学びました。京都らしい優美さと落ちついた趣、そして祇園の桜を見て浮き浮きする人々の気持ちを表現するのは難しく、最初は苦戦する学生達でしたが、繰り返しの練習で最後には美しい女踊りを披露しました。

続く男踊りの清元「玉兎」は、月に兎が住んで餅をつくという中国の古い伝説と、かちかち山の伝説を組み込んだ演目。稽古棒を杵に見立て、兎が餅をつく様子や飛び跳ねる様子などを表現します。女踊りとは異なる、力強い動きが多い踊りですが、練習を重ねるにつれてどんどん上達する学生たち。それぞれの玉兎を踊りきりました。

稽古は2チームに分かれて行われ、とても熱心に稽古に励んだ学生たち。日本古来の体の動かし方や、曲に表現された和の心を学ぶ、貴重な機会となりました。



▲見学中もスペースを見つけ、熱心に自習する学生も



▲女踊りの袖の持ち方を学びます

女子中学生・保護者向け「サイエンス体験サマースクール」を開催

8月27日(土)、女子中学生とその保護者向けに『サイエンス体験サマースクール』を開催しました。このプログラムは、国立研究開発法人科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」(WISE-P)の一環として実施され、今回は令和3年度に引き続き2回目の開催となります。

午前の部はサイエンス体験と保護者向けのラボ中継と懇談会を開催。サイエンス体験は、理学系および工学系の8つの研究室で実験を行いました。実験に参加した女子中学生からは、「学校にはない器具や薬品を扱うことができて、楽しかった」「生物は苦手だったが、生物の実験がこんなに面白いんだと知ることができた」といった感想が寄せられました。

懇談会では保護者からの「理系に進学する際に親が何を心がけたら良いか」等の質問に、本学の理学系・工学系の教員らが応答し、「大学生がどんな勉強をしているのか、どんな生活をしているのかを知ることができた」といった声をいただきました。

午後の部では、「女子大学生・大学院生と語ろう!」と題し、専門分野の異なる6名の理系の女子大学生および大学院生が5分ずつ大学での研究や過ごし方について話しました。その後小グループに分かれての意見交換も行い、大学生活や研究について、理解を深めていただくことができました。

閉講式では、石井理工学研究科長から、一人一人に修了証書が手渡されました。



▲午前の部の「サイエンス体験」の様子



▲午後の部「女子大学生・大学院生と語ろう!」の様子

9
教育

令和4年度秋季学位授与式・入学式が 挙行されました

9月22日(火)に令和4年度埼玉大学学位授与式を挙行了しました。今年度は社会人学生や留学生を含む105名(博士28名、修士46名、学士31名)が卒業・修了し、坂井貴文学長から学位記が授与されました。



学位記授与の様子▶

翌週9月26(月)には秋季入学式を挙行。66名を埼玉大学大学院に迎えました。入学者のうち62名は、中国、モンゴル、スリランカ、ベトナム等の国々からの留学生です。坂井貴文学長は式辞で「これからの2年間、または3年間で健康にそして有意義に過ごし、研究、勉学はもちろん、幅広い活動において多くの成果をあげられることを祈っております」と激励の言葉を贈りました。



入学式で祝辞を述べる坂井学長▶



▲学位記授与と卒業・修了生代表挨拶をされた皆さん



▲新入生との記念撮影

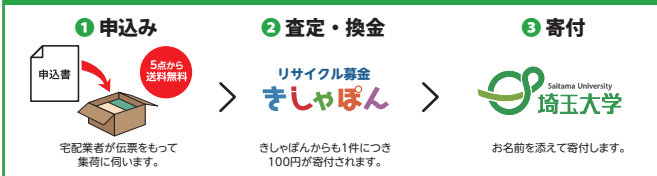
埼玉大学基金室より 埼玉大学リサイクル募金 きしゃぼんのご案内

いつも埼玉大学基金へのご理解とあたたかいご支援をいただき、ありがとうございます。

今回は、埼玉大学リサイクル募金のご紹介をさせていただきます。本募金は皆様から読み終えた本・DVD、ブランド品等をご提供いただき、その査定換金額を埼玉大学基金に寄附する取り組みです。寄附金は、教育・研究支援、キャンパス環境整備、国際交流支援、社会連携支援、学生支援に役立てられます。どなたでもお申し込みいただけます。

今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

リサイクル募金の流れ



募金になるもの(一例)



※その他、商品券、スマホ、楽器、骨董品等、まずはご相談ください。



書籍はISBNコードがあるかご確認ください。
※裏表紙、裏付等にあります。

(WEB受付) 24時間・365日



埼玉大学リサイクル募金



www.kishapon.com/saitama-u/



(電話受付) 9時～18時



0120-29-7000

「埼玉大学への寄付」とお伝えください

◆埼玉大学基金へのご寄附の累計額

令和4年 9月末の状況

674,544,546円

うちリサイクル募金 きしゃぼん によるご寄附 1,395,358円

お問い合わせ先 埼玉大学基金室 (総務部広報渉外課内) ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp

